

NOTE BOOK

CONTAINING BEST RULED FOOLSCAP

敬学会賞第十八回入選作品

色彩の研究

57

6年2組

稲村京子

A
20
ノ
202



<目次>

動力 木幾	----- 2頁
おもな色の名	----- 3頁
光と色	----- 4頁
色の感じ	----- 5頁 ~ 7頁
ませ"色	----- 7頁 ~ 13頁
酉己色	----- 13頁 ~ 14頁
色の名	----- 15頁 ~
水彩の色数	----- 15頁
水彩えのぐ	----- 15頁 ~ 17頁
まとめ	----- 17頁
使った本	----- 18頁
残念だったこと	----- 18頁

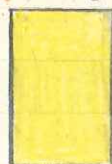
< 動機 >

国工の時間、先生が色についていろいろしつもんしたが、全然わからなかった。だから色の研究をしてみたいなあと思っていた。それにどんな研究をしたらいいかまよっていたので、色の研究をすることにした。なんとかがおもしろそうだし、楽しみなことがやれそうなのでやった。

< おもな色の名 >



しろ



きいろ



だいだい



ももいろ



あか



きみどり



みずいろ



あお



むらさき



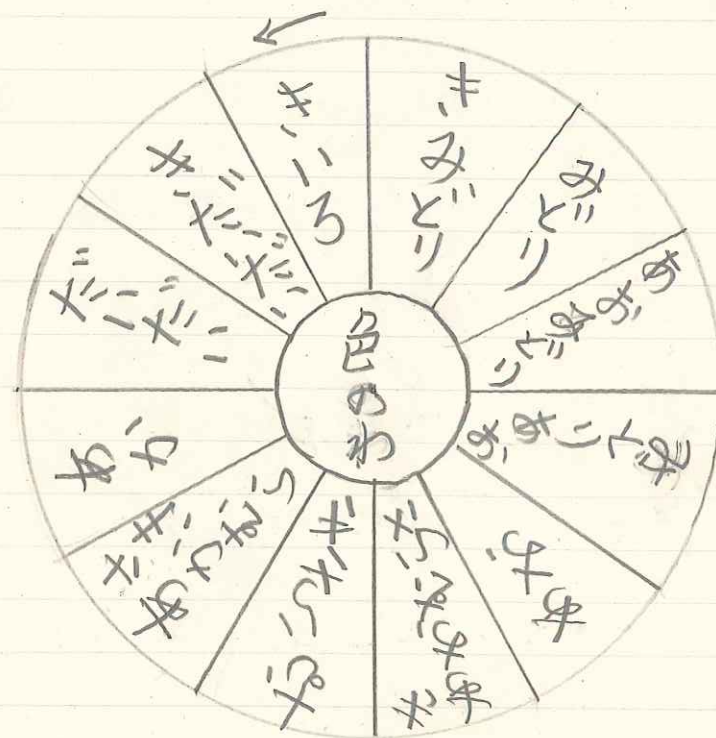
みどり



ちいろ



くろ



<光と色>

色は目に入ってくる光の波長のちがいにによって感じるものである。光は一種の波である。太陽の光を「ポリズム」にしておすと、さまざまな色に分かれる。これは波長のちがう無数の光をふくんでいるからで、むらさきが1番短く赤が1番長い。ものに色があるのはものの表面がこれらの光の一部を反射させ、そのほかを吸収する性質をもっているためである。どの波長の光を反射させるかは、そのものの性質とその表面のじょうたいによってきまる。赤の光を反射させ、他の光を吸収するものは赤く見え、すべての光が反射されると白色、吸収されると黒色、全部の光をとりぬけさせるものは無色トウナイである。軽い色などには区別する。色は人間にさまざまな感情をおこさせるから、配色などには、この性質を利用するとよい。

<色の感じ>

どんな感じがするか

しろ----- 寒々として上品な感じ
夏の服、などに使われる。
きいろ----- かゆいぐて日暑い感じ
子供の服、ホスターなどに使われる。
だいだい----- さっぱりして寒いのと暖かい色の中間。
子供の服などに使われる。
ももいろ----- ふんわりして楽しい感じ
子供、おとなの服などに使われる。
あか----- あたかく陽気な感じ
ネオン、かんぱん、などに使われる。
きみどり----- すっきりしてしんせんな感じ
草などに使われる。
みずいろ----- 清らかな感じ
海などに使われる。
あお----- 正々堂々な感じ
かんぱんなどに使われる。
むらさき----- さびしい感じ
みどり----- さわやかで広々とした感じ
草などに使われる。
ちやいろ----- しんこくな感じ
服の服などに使われる。
くろ----- 暗い感じ
ホスター、かんぱん)などに使われる。
冬の服

○赤、黒、青などの色がかんは"んなど"に使われるのは、

はっきりして目だちやすいからだ、

○黒はねっさくしやすいため冬のものに、多く使われる

○青、水色、白はすずし"う"なので夏のものに、多く使われる

○黄、赤、桃は陽気で暖か"う"た"か"う夏、冬両方に使われる

《明るい色》 赤、黄、桃、た"い"だ"い"な"い

《暗い色》 青、む"さ"き、茶、黒な"い

《強い色》 赤、青、黒

《弱い色》 白、黄、た"い"だ"い"

《暖い色》 赤、桃

《寒い色》 水色、青、む"さ"き、黒、茶な"い

《とびだ"して"くる色》 赤、黄

《青争かな色》 青、緑

《落"ち"いた色》 黒、白

《しず"ん"だ"色》 灰色

《小愉快な色》 赤、桃、黄

《不愉快な色》 む"さ"き、茶な"い

《陽気な色》 赤、黄、桃な"い

《いんきな色》 茶な"い

《ませ"色》

ふたつ以上の色をませ"るといろんな色ができる

1. レモン・エロー

11. バーン・ツェン

2. カドミウム・エロー

12. ロー・アンバー

3. イエロー・オーカ

補助色

4. ライト・レッド

1. コバルト・ヴァイオレット

5. ヴァーミリオン

2. セルリアン・ブルー

6. ディープ・マティ

3. ネー・ポルス・エロー

7. コバルト・ブルー

4. カドミウム・レッド

8. ウルトラマリン

5. エナラルト・グリーン

9. コバルト・グリーン

6. エール・ヴェルト

10. ヴァイリテ・アサ

7. バーン・アンバー

8. フォレッシュアン・ブルー

9. スカイ・ブルー

。なぜませぬばなふぬか。

絵具の色は、自然のうちに見られるいろいろ複雑な色合いをもった色を分類して、代表になるような色に整理して、人間が作ったもの。たゞか、自然の物を写生する場合、絵具そのままですませるような色はほとんどない。もともとはやはり絵具で「人」の色づけをしたものでさえも、それに光があたり、かげひなたができれば、しぜん物と同じかげひなたの強さの度合で複雑な色の変化がそこにできて、えのぐそのままの色ではまにあわなくなる。

。三原色

自然のたくさんな色をもともかんに整理する

↓
三原色
(赤、青、黄)

絵具 → 自然の色を整理した代表色のようなもの

ませる → 自然の色が作りやすいように工夫されてる。

ませれば「無数」の中間色ができる

色	えのぐの名前	おもなませ色とその変化	色の性質
白	シンク・ホワイト (白)	+ どの色でも = その色がうすくなる	
青	フォレッシュアン・ブルー (青)	+ 黄色 = 緑 + 茶 = け茶	強い色
	コバルト・ブルー (青)	+ 赤 = むじさき + 黄 = 系緑	
	スカイ・ブルー (空色)	+ 赤 = ふじ色 + うす茶 = 黄系緑	弱い色
緑	クローム・グリーン (系緑)	+ 黄 = 黄系緑	
	エリツヤン (深系緑)	+ 赤茶 = ねずみ色	
黄	クローム・イエロー (黄)	+ 赤 = たいたい	
	レモン・イエロー (うす黄)	+ しゅ = 明るいしゅ	
	イエロー・オーカー (おうど)	+ どの色でも = くすんだ中間色	弱い色
茶	ロー・アンバー (にげ茶)	+ 赤 = えんじ	弱い色
	バンド・シエンテ (茶)	+ 青 = けさき	
	ライト・レッド (赤茶)	+ 深緑 = ねずみ色	強い色
赤	カーマイン (赤)	+ 黄 + 青 + 空色 = 前出	
	バミオン (しゅ)	+ 黄 = さえたしゅ	強い色
黒	アイボリー・ブラック (黒)	+ 白 = ねずみ色	

赤 + 青 = 紫系

青 + 黄 = 绿系

赤 + 黄 = 橙系
または茶色系

三系統に分類

○赤と12魚をまぜてわかったこと。

赤 + 黃綠 = 茶系

赤 + 系 = 紫系

赤 + いんじょ = 止系系

赤、+ ちうど" = 赤、茶系

赤 + 茶 = 赤, 茶系

市、十黑 = 紫系

赤 + 白 = 相

赤 + 青 = 紫系

赤、十やまふき = た"|| た"||

赤 + 黃 = 赭 系

赤、十た"いた"いに桃系

。青とに色をませ"てわが、たこ

青 + 赤 = 紫系

青子たいたい=紫系

青 + やまふ"キ = 黄緑系

青 + 黄 = 黄绿系

青 + 黃綠 = 糸录糸

青 + 糸 = 青 糸

青 + ぐんいよ = 青系

青+あざ=黄緑系

青 + 茶 = 二ヶ茶系

青+黒=ぐんじょ系

青+白=水色系

○黄とに色をまぜてわかつたこと。

黄子た"いた"い=た"ハた"ハ系

黃十下まふ^半 = 黃系

黃 + 黃綠 = 黃綠系

黃 + 綠 = 綠系

黄 + 青 = 绿系

黄 + くろいよ = 緑系

黄+おうど=黄須

黃十茶二黃系

黃 + 黑 = 黃系

黃 + 白 = 黃糸

黄 + 赤 = 大"ハ 大"ハ 系

黒、青、茶など暗い色をふくんだ色はにこってよく
まぜ

明るく色を小くした"色は明るくきれい。

色はすすしそつて 551 他レリ

ふくんだ"色はうすくなる

絵具 そのままの色が一番あざやかでまぜればまぜるほど

青 = 緑系

赤 + 黄 = 木登^キ系
または茶色系

三系統に分類

たこど

赤 + 系録 = 紫系

赤 + おうど = 赤、茶系

赤 + 黒 = 紫系

赤 + 青 = 紫系

赤 + 黄 = 系録系

たこど

青 + た^いいた^い = 紫系

青 + 黄 = 黄緑系

青 + 黄緑 = 系録系

青 + く^んじ^ょ = 青系

青 + 茶 = ニガ茶系

青 + 白 = 水色系

。黄とに色をまぜてわかつたこと。

黄 + た^いいた^い = た^いいた^いハ系

黄 + やまぶ^き = 黄系

黄 + 系録 = 緑系

黄 + く^んじ^ょ = 系録系

黄 + 茶 = 黄系

黄 + 白 = 黄系

青 + 系録 = 青系録

青 + おうど = 黄系録系

青 + 黒 = く^んじ^ょ系

黄 + 黄系録 = 黄系録系

黄 + 青 = 系録系

黄 + おうど = 黄系

黄 + 黒 = 黄系

黄 + 赤 = た^いいた^いハ系

黒、青、茶など暗い色をふくんだ^{ほせ}色はにこつてよくつら。また赤、黄など

明るい色をふくんだ^{ほせ}色は明るくきれい。

色はすすしそつて 551 ぼい

ふくんだ^{ほせ}色はうすくなる。

絵具そのまゝの色が一着あざやかでまぜればまぜるほど

あざやかさが失なわれてにこってきたなくなり、いっしょにもしはいわ

にもっていたあざやかさがなくなる。ところから同系統の二

系統の色のまぜ合わせはほとんどにで"ふない！

しゅ色 + 系E 桃色 + 赤 緑 + 黄緑

黄 + 黄緑 おうど + 茶 など

系統のさがう二原色をまぜ"あわせ"ても、どうとくにあざ

やかな色ができる。

赤 + 黄 赤 + 青 黄 + 青 青 + 黄

色数は12色、24色などあるが"これはあざやかさをな

るべく失なわないようにして目的の色が出せるように

するために多くしてあるのだ"と思った

原色 濃淡に注意すれば"美しい色

中間色 2つ、3つと色をまぜ"て作るか

てぬ"てみる。するとみる目にはまぜ"たときと同じ

ように感じられ、しかも元の"そのままの色のあざ

やかさを失なわないですませることが"できる

《西己色》

色にとって西己色はき、てもきれいなものである。

色を使うときは必ず色と色をくみあわせる。

衣服のゆんでもホ"スターの面でも。あ"ゆるゆん

で"配色がある。

西己色は色と色をくみあわせる。

どんな西己色があり、どんな感じが"するか、

赤と黒 --- 陽気で楽しい。

黄と赤 --- かゆい"づしくて目るい

な"い"い"い"るな西己色があり感じが"する。

めだ"っ"色の系とみあわせは、色の目るさの
ちが"うものさくみあわせたり色あいのとあ
いのさくみあわせるとよい

春

桃色と黄

青と赤

など「あたたか」そうな西己色

夏

水色と白 黄と水色

など「すずし」そうな西己色

秋

緑と茶

など「すずしくもあたたかくもない」西己色

冬

黒と赤

など「あたたかい」西己色

ホロスター、かんぱん、ネオンサイン

赤と青 黒、赤、青 赤、黄

など「めだち」やすい色。とくにホロスター

など「はめだち」やすい西己色。

明るく色は大きくとびだして見え、暗く色は

小さくしずんで見える

《色の名》

水色

英語 ウォーターカラー

フランス語 アクリル

物の名をとった色の名

みかん色 水色 空色 ねずみ色 はたき色

もも色 やまぶき色 ふい色 うぐいす色

ほたん色

《水彩の色数》

大昔のエジプト、ギリシャでは絵具はせいせい

四五色

《水彩えのぐ》

透明なものと不透明なものとがあり透明なものでは固形

えのぐとチューブ入りのがある。いずれも色は水で

くることができ。

。不透明なものには水でとかす“チューブ”がふた“したままのドロドロな色をぬりつけることもできる。た“が”不透明の度合いが不十分だから、あまりきれいに色をぬれない。不透明えのぐの色も水でうすめれば透明になる。

。えのぐはふたつ以上の色をまぜ合わせ、いろんな色をつくられる。

。透明な水彩えのぐでは、色をまぜ“合わせないで、ふたつ以上の色をつき“つき”と重ねてぬると、まえにぬった色が上にぬった色とおいて表われる。

ふたつをまぜ“合わせ”にまぜ“色よりも、

すんだまぜ色が“かさね色”でできるのち“

透明の牛乳長。

。色までを少なくするほど、色が鮮明にた“せる。

えのぐの欠点

1. えのぐが“かわくのに時間がかかる。

2. いちど“ぬった色はよいにおちないし、その色のえいきょうが“重ねぬりした色にひびくか“ふ、しくい“りをしてしたふとりかえしが“つかない。

。強い色とは、こく“てう“かり多量に使うとほ“かの色がまけてその色のえいきょうがたやすくはきえない色だから注意して少量ずつにするとよい。

。弱い色とは、こい“ようにみえるのがあっても、その色が“他の色ととけあ“て了強いえきょうがない色。

まとめ

1. 色は感“いによ、てい“る使われる。

2. 赤を多くふくんだ“色は明るく黒を多く

ふくんだ“色はにご“てくらしい。

3. いろんな色があり感“いが“すから。

使った本

新しい学習事典

デッサイン

はり糸会

水彩画

さんねんたったこり

。少ししかしなかつたこり。